

# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を

## 中津教育事務所学校訪問における略案の改訂6 必須事項

### 2 評価規準は「ねらい」と整合しているか

1 育成すべき  
資質能力を明  
確にした適切  
な「ねらい」か

年 組	4年1組	教 科	算数	指導者	〇〇 〇〇
単元・題材	折れ線グラフ			時 数	4 / 5
ねらい	波線を使ったグラフのよさを、波線のないグラフとの比較をすることを通して、説明することができるようにする。				
〔観点〕 評価規準 (見取る方法)	〔数学的な考え方〕二つの折れ線グラフの相違点を根拠に、波線を使ったグラフのよさについて考えている。(ノート観察)				
展 開	【めあて】	折れ線グラフの工夫を説明しよう			
	《課題》	B (波線あり) のグラフの変化が分かりやすいのはなぜか			
	《まとめ》	縦の目盛りは波線を使うことで折れ線に必要な部分だけとなり、目盛り幅も大きくなるからわかりやすくなる。横目盛りを変える必要もない。			
	【振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフは表し方の工夫で見える人がわかりやすくなる。</li> <li>・みんなの理由を出し合い、抜けのない説明ができた。</li> </ul>			

3「めあて・課  
題・まとめ・振  
り返り」を適  
切に位置付  
けているか

4 「考えるため  
の技法」が学習  
活動に位置付  
いているか

6 個に応じた指  
導の工夫、特別  
な配慮を必要と  
する児童生徒へ  
の指導の工夫が  
あるか

5 振り返りは、学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につなげられるような視点で設定できているか

# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を



年 組	4年1組	教 科	算数	指導者	〇〇 〇〇
単元・題材	折れ線グラフ			時 数	4 / 5
ねらい	<u>波線を使ったグラフのよさを、波線のないグラフとの比較をすることを通して、説明することができるようにする。</u>				
[観点] 評価規準 (見取る方法)	[数学的な考え方] 二つの折れ線グラフの相違点を根拠に、波線を使ったグラフのよさについて考えている。(ノート観察)				
	【めあて】 △ 《課題》	折れ線グラフの工夫を説明しよう B (波線あり) のグラフの変化が分かりやすいのはなぜか			

## 【1】育成すべき資質能力を明確にした「ねらい」か

### 《ねらいの書き方の例》

- A 学習内容(～を、～について)
- B 学習活動(〇〇を通して、〇〇して、〇〇と比べて)
- C 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする、△△に気づくようにする、△△を高める、等)。

※A～Cの3つの要素を入れて授業の骨子を明確にする。

※Bについては、「順序づける・比較する・分類する・関連付ける・多面的に見る・多角的に見る・理由づける・見通す・具体化する・抽象化する・構造化する」等、「**考えるための技法**」を意識する。

※ねらいの育成すべき資質・能力については、**評価規準と整合する**。

# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を

年 組	4年1組	教 科	算数	指導者	〇〇 〇〇
単元・題材	折れ線グラフ			時 数	4 / 5
ねらい	波線を使ったグラフのよさを、波線のないグラフとの比較をすることを通して、説明することができるようにする。				
【 <input type="checkbox"/> 】 評価規準 (見取る方法)	【 <input type="checkbox"/> 】 [数学的な考え方] 二つの折れ線グラフの相違点を根拠に、波線を使ったグラフのよさについて考えている。(ノート観察)				
	【めあて】 ↑ 《課題》	折れ線グラフの工夫を説明しよう B (波線あり) のグラフの変化が分かりやすいのはなぜか  ＜学習活動＞ ・ A、Bの折れ線グラフの特徴をベン図で比較する。			



## 【2】評価規準は「ねらい」と整合しているか。

※「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に作成する。（2020年度以降、新しい参考資料が示されます）

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

※「おおむね満足できる状況」を指導者が設定。

※評価規準に基づいた観点を [ ] 内に、見取る方法を ( ) 内に記入。その際、観点および記述内容がねらいの「育成を目指す資質・能力」と整合していること。

# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を

その3

ねらい	<u>波線を使ったグラフのよさを、波線のないグラフとの比較を通して、説明することができるようにする。</u>
[観点] 評価規準 (見取る方法)	[数学的な考え方] 二つの折れ線グラフの相違点を根拠に、波線を使ったグラフのよさについて考えている。(ノート観察)
展 開	【めあて】 折れ線グラフの工夫を説明しよう
	《課題》 B (波線あり) のグラフの変化が分かりやすいのはなぜか  <学習活動> ・ A、Bの折れ線グラフの特徴をベン図で比較する。 ・ ベン図をもとに理由を整理し、まとめる。 ※理由をまとめることが難しい児童には、まとめ方の文型を提示し、ベン図との関連をとらえさせる。 ・ 理由を交流し合い、必要な視点を選択する。
	《まとめ》 縦の目盛りは波線を使うことで折れ線に必要な部分だけとなり、目盛り幅も大きくなるからわかりやすくなる。横目盛りを変える必要もない。
	【振り返り】 ・ グラフは表し方の工夫で見る人がわかりやすくなる。 ・ みんなの理由を出し合い、抜けのない説明ができた。

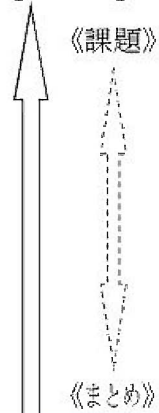
**【3】教科等の特質を踏まえて、「めあて・課題・まとめ・振り返り」を適切に位置付けているか。**

※「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが授業の毎時間で必要というわけではありません。提示の順序やタイミングも教科等の特質や授業場面によって変化します。本時のねらい等に応じ、児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定することが重要です。



# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を

その4

ねらい	波線を使ったグラフのよさを <b>波線のないグラフとの比較をすること</b> を通して、説明することができるようにする。	
[観点] 評価規準 (見取る方法)	[数学的な考え方] 二つの折れ線グラフの相違点を根拠に、波線を使ったグラフのよさについて考えている。(ノート観察)	
展 開	【めあて】 《課題》 	折れ線グラフの工夫を説明しよう B (波線あり) のグラフの変化がわかりやすいのはなぜか  <学習活動> <b>A、Bの折れ線グラフの特徴をベン図で比較する。</b> ・ベン図をもとに理由を整理し、まとめる。 ※理由をまとめることが難しい児童には、まとめ方の文型を提示し、ベン図との関連をとらえさせる。 ・理由を交流し合い、必要な視点を選択する。
	《まとめ》	縦の目盛りは波線を使うことで折れ線に必要な部分だけと


## 【4】「考えるための技法」が学習活動に位置付いているか。

ねらいのBの部分で記述した「考えるための技法」が学習活動に位置付いているか

ねらい: 波線のないグラフとの比較すること ⇔ 学習活動: 特徴をベン図で比較する

「考えるための技法」≠「思考ツール」～思考ツールは「考えるための技法」を使いやすくするためのツールであると考えます。必ずしも作成例にあるような思考ツール位置づけなければならないといったことはありません。

# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を

その5		<p>縦目盛りは縦線を使うことで傾斜に必要なのは横目盛りとなり、目盛り幅も大きくなるからわかりやすくなる。横目盛りを変える必要もない。</p>
	<b>【振り返り】</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ グラフは表し方の工夫で見るとわかりやすくなる。</li><li>・ みんなの理由を出し合い、抜けのない説明ができた。</li></ul>

**【5】振り返りは、学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につなげられるような視点で設定できているか。**

※めあてに対する振り返りとなっているか。

- ・ 成果の実感 ⇒ ・ グラフは表し方の工夫で見るとわかりやすくなる。
- ・ めあてと関連 ⇒ ・ みんなの理由を出し合い、抜けのない説明ができた。

# 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の推進を

《課題》 B（波線めり）のグラフの変化が分かりやすいのはなぜか

《学習活動》

- ・ A、Bの折れ線グラフの特徴をベン図で比較する。
- ・ ベン図をもとに理由を整理し、まとめる。
- ※理由をまとめることが難しい児童には、まとめ方の文型を提示し、ベン図との関連をとらえさせる。
- ・ 理由を交流し合い、必要な視点を選択する。

《まとめ》 縦の目盛りは波線を使うことで折れ線に必要な部分だけと

**その6**

## 【6】個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫があるか

※すべての児童生徒を「おおむね満足できる状況」にするための手立てが学習活動の中に位置付いているか。

記述形式例： 「～な児童には～させることで～をとらえさせる」  
                  (対象児童)      (手立て)          (目的)

→記述例「※理由をまとめることが難しい児童には、まとめ方の文型を提示し、ベン図との関連をとらえやすくする。」